



平成 19 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18 年 8 月 1 日

上場会社名 フジッコ株式会社

（コード番号：2908 東証・大証第一部）

（URL <http://www.fujicco.co.jp/>）

代表者 代表取締役社長 福井 正一

問合せ先責任者 取締役副社長企画部長 渡辺 晃

（TEL：078-303-5921）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無：有

（内容）

・引当金の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。

・法人税等の計上基準は、法定実効税率をベースとした計算を行っております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無：無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無：無

2. 平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（単位：百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	11,814	0.5	635	37.5	703	34.3	397	36.2
18年3月期第1四半期	11,760	7.3	1,017	20.2	1,070	20.4	623	19.3
(参考)18年3月期	48,225		3,418		3,624		2,238	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	11.77	-
18年3月期第1四半期	22.13	-
(参考)18年3月期	78.21	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を表示しております。

平成 18 年 4 月 1 日付をもって普通株式を 1 株につき 1.2 株に分割しており、平成 19 年 3 月期第 1 四半期の 1 株当たり四半期純利益は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

当第 1 四半期におけるわが国経済は、企業収益が高水準で推移し、良好な業況感が維持されるとともに、雇用・所得等に緩やかな改善の動きがみられ、個人消費は増加基調にありましたものの、スーパーマーケットの食品売上高は特筆すべき改善の動きがみられず、当社グループにおきましては依然として厳しい事業環境となりました。

このような状況下、当社グループにおきましては、豆と昆布のコア事業をはじめとする既存事業では、“定番”の改善・改良に注力し、付加価値販売を推進するとともに、カスピ海ヨーグルト事業、日配惣菜事業、フードサプライ（業務用食材販売）事業、通信販売事業など新事業の拡大に取り組んでまいりました。

主な製品分類別の販売状況は、その他製品では機能性素材「フジフラボン」、豆製品では納豆、豆菓子の子の売上高は伸び悩みましたが、そう菜製品では首都圏の日配惣菜事業、昆布製品では塩吹昆布、佃煮昆布の売上高を順調に伸ばすことができました。

その結果、当第 1 四半期の連結売上高は 118 億 14 百万円（前年同四半期比 0.5%増）、連結経常利益は収益力のある製品の伸び悩みにより 7 億 3 百万円（前年同四半期比 34.3%減）、連結当第 1 四半期純利益は 3 億 97 百万円（前年同四半期比 36.2%減）となりました。

(2)財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	63,082	50,125	79.5	1,483.49
18年3月期第1四半期	60,701	48,346	79.6	1,714.82
(参考)18年3月期	64,307	50,577	78.6	1,793.30

(注) 平成18年4月1日付をもって普通株式を1株につき1.2株に分割しており、平成19年3月期第1四半期の1株当たり純資産は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	367	2,392	451	15,547
18年3月期第1四半期	265	872	442	16,099
(参考)18年3月期	4,042	2,170	996	18,023

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ12億25百万円減少し、630億82百万円となりました。これは、法人税等の支払い及び配当金の支払い等による現金及び預金の減少等によるものであります。

純資産は、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末に比べ4億51百万円減少し、501億25百万円となりましたものの、自己資本比率は前連結会計年度末の78.6%から79.5%となりました。

当第1四半期のキャッシュ・フローの状況については、税金等調整前の当第1四半期純利益が7億2百万円であったものの、営業活動において法人税等の支払いが8億10百万円であったこと、投資活動において有形固定資産の取得による支出が13億43百万円であったこと、さらに財務活動において配当金の支払いが3億25百万円であったこと等により、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ24億75百万円減少し、155億47百万円となりました。

(参考1) 四半期個別経営成績等の概況(平成18年4月1日～平成18年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19年3月期第1四半期	11,677 0.4	459 45.5	570 39.2	334 39.0
18年3月期第1四半期	11,632 7.5	844 17.2	938 14.1	548 11.2
(参考)18年3月期	47,547	2,920	3,195	2,032

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	58,308	47,838	82.0	1,415.80
18年3月期第1四半期	56,155	46,248	82.4	1,640.43
(参考)18年3月期	59,638	48,350	81.1	1,714.39

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を表示しております。平成18年4月1日付をもって普通株式を1株につき1.2株に分割しており、平成19年3月期第1四半期の1株当たり純資産は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

3.平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	23,850	1,400	825	-
通期	49,250	3,250	1,900	55.24

(参考2)平成19年3月期の個別業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	23,500	1,300	760	-
通期	48,500	3,050	1,800	52.38

1株当たり予想当期純利益の計算は、第1四半期末発行済株式数によっております。

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想につきましては、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

当社グループを取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、当期の連結業績は中間期、通期とも概ね当初(平成18年3月期決算発表時)の予想どおり推移すると見込んでおります。

なお、個別業績予想についても同様であります。